

障害

中 二

みなさんは、障害のある人を見てどんな行動をとっていますか。私は、人権作文とおして今までの行動を振り返ってみようと思い、このテーマについて考えてみました。

ある日、私が家族と出かけたときのことです。移動には電車を利用して行きました。次のお店に行こうと電車に乗りました。するとそこには、目が不自由でつえをついている女の人が立っていました。その方の前の席には、高校生くらいの男の人たちが二人で座っているのが見えました。私は、その場所から少し離れているところに立っていました。しばらくして電車が動き始めると、その女の人揺れに耐えられず、ふらふらしたり、かばんを周りの人にぶついたりしていました。そのかばんは、大きな声で話をしていた高校生たちにも当たってしまいました。すると、高校生たちは女の人の顔をにらむように見ていました。やがて楽しそうに話していた高校生たちの声も鋭くささる

ような悪口へと変わっていききました。わぎとなのか、女の人に聞こえるような大声でした。少し離れていた私たちにも、それは聞こえてきました。

「目が見えないから人にかばんを当てても謝らずに知らん顔できるんだよな。」

「目が見えないなら電車なんか乗るなよ。」
といった言葉でした。心ない言葉に女の人は何も言えず、下を向いてじっとしていました。どうして、女の人は何も悪いことをしていないのに、責められなくてはいけないのだろうかと思っていると、それを見ていた近くの男性がすつと立ち上がり、女の人に席をゆずっているのが見えました。女の方は、深く頭を下げて何度もお礼を言っていました。席をゆずった男性は、違う車両へと移っていきました。

私が電車を降り、駅のホームを歩いていると、私が乗っていた車両の一つ前のところに男性は立って乗っていました。私は、男性がとった行動に感動しました。自分だったら、絶対に勇気がでなくて、席をゆずれなかったと思います。そう考えると、とても恥ずかしく、情けない気持ちになりました。

後から私は、母に言われました。

「困っている人を見かけたら、声をかけないことには何も始まらない。自分にできることであれば手助けをすることが大切だと思うよ。」

その言葉は、何もできなかつた私に助け合うという大切さを改めて教えてくれました。今まで何もせず、ただ見ていただけの自分を変えていかなくてはいけないという気持ちと同時に、自分の中にその勇気があるだろうか、不安な気持ちになりました。

これから私たちが成長していくにつれて、いろいろな世界を知り、障害のある人たちに出会うこともあると思います。そういったときに前と同じように見て見ぬふりをせず、声をかけて、手助けができるようになりたいです。思いきって声をかけられる人になりたいです。一人一人が助け合い、支え合っていけば、障害のある人も安心して過ごせる環境ができると思います。誰もが同じ人間であり、平等に過ごす権利があります。みんながこのようなことを意識して生活し、住みやすくなっていけばよいと思います。